

災害から身を守るために

vol.7

「いざ」という時に…津波編 (PART 3)



津波編の三回目となる今回は、津波の後に起こる火災による被害や、地震や津波の前兆として報告されている「**宏观現象**」についてお知らせします。

■津波で火は消えない？

平成五年七月十一日に発生した「北海道南西沖地震津波」による奥尻島の被害状況は、当時のテレビ映像などにより、私たちの記憶にも新しいものです。

この時の被害で注目される点は、津波によるもの以外に、津波の来襲で被害を受けなかった多くの家屋が、その後に発生した火災により焼失したことです。

「火は水で消えるはずなのに津波が火災を起こす」ことは、昭和の三陸津波や新潟地震津波、古くは安政

の大津波など、過去の津波においても多くの事例があり、かねてから、津波の後に発生する火災の危険性が指摘されてきました。

■水を運ぶ津波が火災を起こす

北海道南西沖地震の際、出火場所は特定されていないものの、発生した火災が、津波によって破損した各家庭の石油ホームタンクなどから流れた油で延焼し、さらに、破壊された家屋の残骸で消火活動も遅れたため、青苗地区の被害を増大させました。

また、昭和三十九年の新潟地震では、石油タンクやパイプから流出した油に火がつき、津波により水の上を広がり、多くの民家が焼失したという報告もあります。

■火災への対策も重要

津波の来襲時には、まず避難することを考え、海岸や浜から離れ高台

などに避難することが重要ですが、避難する際は火元の確認を行うことも大切です。

また、石油やガス器具、電化製品などの耐震性の確認や、自動制御安全装置の設置など、日ごろから地震や津波だけでなく、火災に対する心構えも必要です。

次回は「いざ」という時に「風水害編」と題して、台風や大雨などの災害への心構えなどについてお知らせします。

問合せ先 市総務課危機管理室
防災交通安全係 ☎(22)660
0内線221

一口メモ 宏观現象とは？



古くから、大地震の前に「地鳴りがする」「空が光る」「動物が騒いだ」などの異常現象の報告が無数にあります。中には明らかに荒唐無稽のものもありますが、このような現象を「**宏观現象**」と呼んでいます。

この現象の解明のため、ナマズの予知能力について科学的に研究している学者も存在し、阪神大震災の際には千件以上の報告が研究室に寄せられたそうです。

〈これまでに報告された「宏观現象」〉

自然現象	発光	○光の玉や柱が、地面から空中に上がった ○空が光り輝いたり、真っ赤に染まっていた
	音	○地震の数日前から、地鳴りや「ドーン、ドーン」という音がしていた
	海面	○地震の前に潮が沖に引いたり、潮位が変化していた ○地震の前に海面が泡だったり、濁ったりしていた
	地下水	○井戸が枯れたり濁ったり、温度が上がったり下がったりした ○間欠泉が大量に噴出した ○温泉の温度や水質が変化した
動物	雲	○地震雲が見られた（ねじを巻いたような雲や異常な形の雲）
		○ナマズが暴れた ○ミミズが大量に発生した ○ネズミがいなくなった ○冬にヘビが外でとぐろを巻いていた ○犬が興奮してほえだし、人を外に連れ出そうとした ○鳥がパニック状態となった ○深海魚が上がってきた ○アジやイワシが大量に獲れた ○急に魚が獲れなくなった

